

原子力発電所点検作業の不祥事に対する 再発防止と安全確保に向けた今後の取り組み

平成16年12月10日
東京電力株式会社



目次

1. 主な不適切事象
2. 点検・補修を通じた安全確保
3. 再発防止対策と信頼回復に向けた取り組み
4. 今後の更なる原子力発電所の安全確保の取り組み



1. 主な不適切事象

(1) GE社(ゼネラルエレクトリック社)指摘事項の公表

- ・GE社より29件の不適切な可能性のある事案について指摘があり、事実隠しや記録の改ざん等の不適切な点が認められたものは全体で16件
- ・平成14年9月に「GE社指摘事項に関する調査報告書」を公表

(2) 原子炉格納容器漏洩率検査における不正問題

- ・平成3,4年に実施した福島第一原子力発電所1号機の原子炉格納容器漏洩率検査において、数値が良くなるように不正が行われていたことが判明
- ・平成14年12月に「原子炉格納容器漏洩率検査に係る問題について(最終報告)」を公表

(3) 過去の自主点検記録の総点検

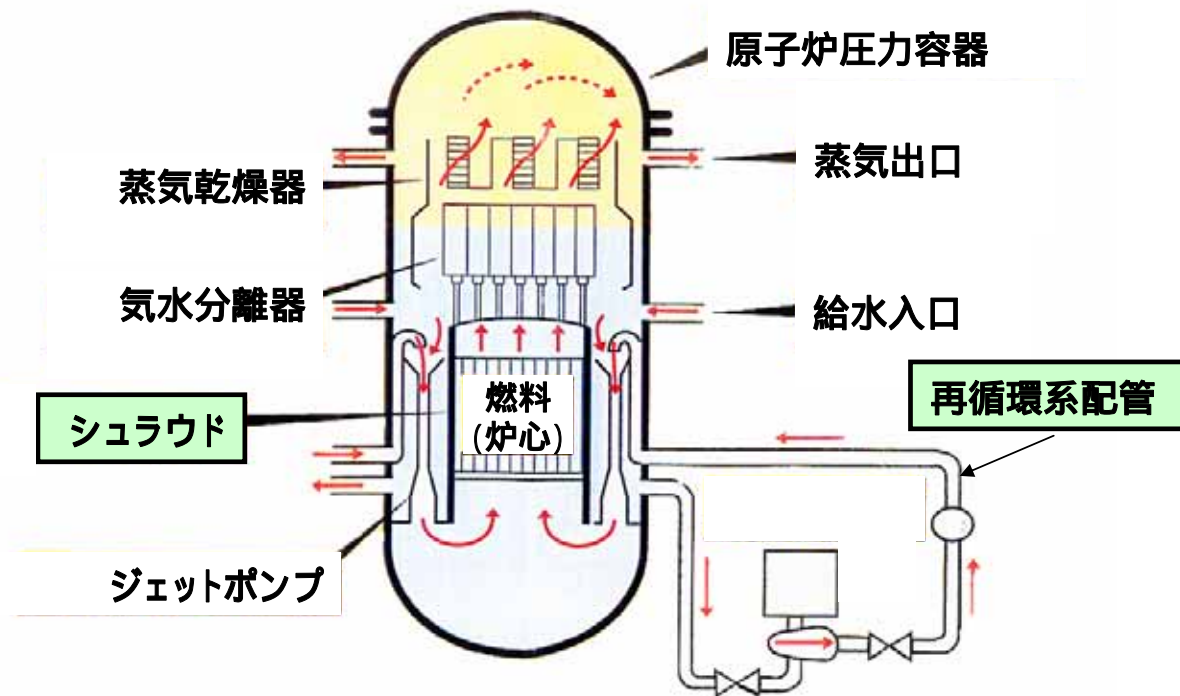
- ・約800万ページに及ぶ工事報告書や検査成績書を5ヶ月にわたって精査し、平成15年2月に「原子力施設にかかる自主点検作業の適切性確保に関する総点検最終報告書」を公表
- ・技術基準違反や報告義務違反等の不正はなかったものの、品質保証上改善すべき事項が73件



2. 点検・補修を通じた安全確保(1/2)

(1) シュラウド及び原子炉再循環系配管の点検・補修

- ・ ひびが確認されたプラントは、国の健全性を評価する委員会の見解に基づき、ひびの補修、配管取替を実施
- ・ ひびの補修、配管取替を実施した箇所は応力改善措置を行い、今後計画的に点検

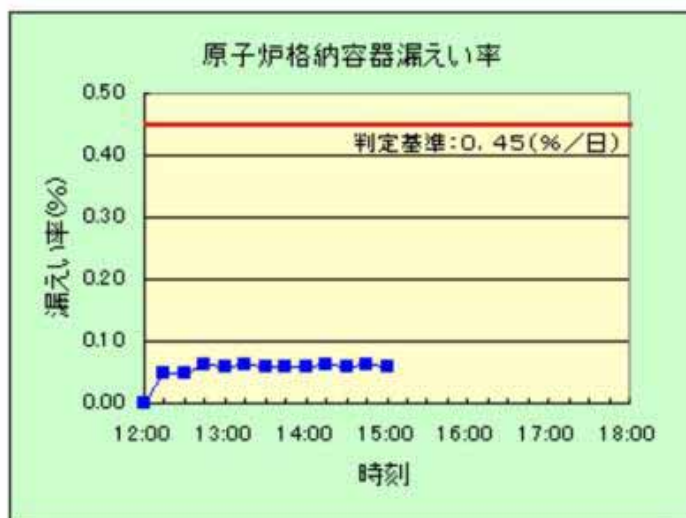




2. 点検・補修を通じた安全確保(2/2)

(2) 原子炉格納容器漏洩率検査の厳格な実施

- すべてのプラントについて国の厳格な検査が行われ、判定基準を満足していることを確認



ホームページにおける漏洩率データのリアルタイム表示例



原子炉格納容器漏洩率検査終了時の封印解除例



3. 再発防止対策と信頼回復に向けた取り組み

『しない風土』と『させない仕組み』の構築

(1). 企業倫理遵守の徹底

(2). 現場を重視した的確な業務遂行のための環境整備

- ～ 発電所で働く全員が一体となった発電所業務の遂行～
- ～ 原子力部門外からの『させない仕組み』の構築～
- ～ 安全管理、品質管理の徹底～

原子力部門の組織風土の改革

コミュニケーションの強化

情報公開の徹底と透明性の確保

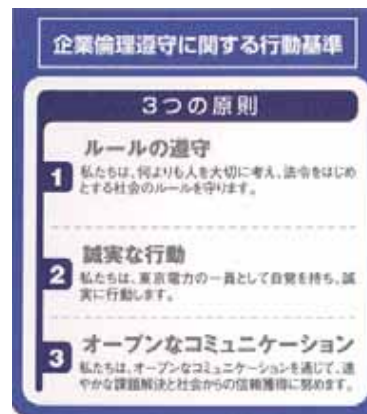


3-(1). 企業倫理遵守の徹底

- 会長が企業倫理を担当
- 企業倫理責任者、企業倫理担当を本店各部及び各事業所に設置
- 社外有識者が参加する企業倫理委員会の設置
- 行動基準の作成、企業倫理研修の実施
- 企業倫理相談窓口の設置



企業倫理委員会



携帯カード



企業倫理研修



3-(2). 現場を重視した的確な業務遂行のための環境整備(1/2)

～発電所で働く全員が一体となった発電所業務の遂行～

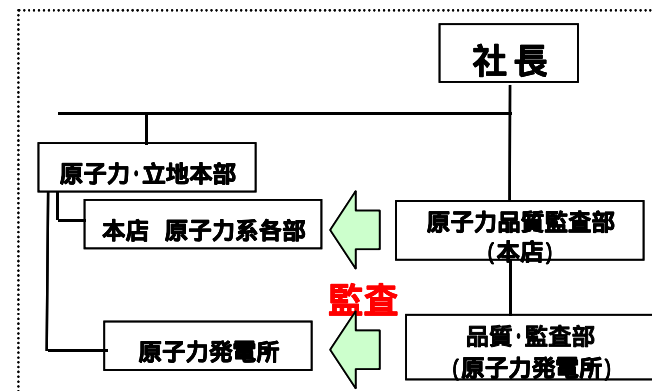
- ・ 不適合管理委員会を設置し、不適合事象の審議
- ・ 規程・マニュアルの見直し：責任と権限の明確化、本店と発電所の品質保証上の役割の明確化等
- ・ 品質保証に係る体制の強化：品質・安全部の設置、ユニット所長制度の導入

～原子力部門外からの『させない仕組み』の構築～

- ・ 社外有識者による原子力安全・品質保証会議を設置
- ・ 社長直属の原子力品質監査部を設置、内部監査



不適合管理委員会



社長直属の原子力品質監査部を新設



3-(2). 現場を重視した的確な業務遂行のための環境整備(2/2)

～安全管理、品質管理の徹底～

- 原子力安全・品質特別強化活動の実施（安全総決起大会等）
- 現場管理の改善（5Sパトロール*、異物混入撲滅対策等）
- 協力企業との意見交換会の開催（現場管理の改善、双方向コミュニケーション）
- 協力企業とともに作業管理の改善を行うための「合同推進チーム」を設置
- CBA (Check Before Action)活動の推進（福島）
- STAR(Stop, Think, Action, Review)活動の推進（柏崎刈羽）



協力企業と合同の安全総決起大会



協力企業と当社との意見交換会

* (5S): 整理、整頓、清掃、清潔、躰



クリーンアップ作戦の展開



3-(2)- . 原子力部門の組織風土の改革

- 原子力部門と他部門との人材交流
- 原子力再生活動
 - リーダーシップ（開発研修業務改善手法習得と変革への意識改革）
 - 業務プロセス改善活動
- 国際原子力機関(IAEA)、世界原子力発電事業者協会（WANO）等の専門家チームによるレビュー



原子力再生活動



WANOピアレビュー



3-(2)- . コミュニケーションの強化

発電所で働く人の情報共有の仕組み

-電子掲示板を用いた情報共有

(発電所で働く全ての人が確認可能な場所に設置)

-メールマガジン

(発電所の軽度な事象も分かりやすい表現で記載し、タイムリーに配信)



電子掲示板による情報共有



協力企業の方々 (= 地域の方々)への
情報提供広場



3-(2)- . 情報公開の徹底と透明性の確保(1/2)

- ・ 発電所リアルタイムデータの公開
(発電機出力、モニタリングポスト、排気筒モニタ等)
- ・ 「福島県原子力発電所所在町情報会議」(8回)、 「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」(19回) への積極的な情報公開と発電所の現況確認



リアルタイムデータの公開
(発電機出力の例)



福島県原子力発電所所在町情報会議



発電所現況視察
(柏崎刈羽原子力発電所の
透明性を確保する地域の会)



3-(2)- . 情報公開の徹底と透明性の確保(2/2)

情報公開の徹底

原子力発電所における不適合事象発生時の公表基準 (平成15年11月10日公表)

区分	内容	公表方法
	法律に基づき報告が必要なトラブル (例：原子炉の計画外停止等)	夜間・休祭日であってもすぐに公表
	運転管理の上で重要な不具合 (例：シュラウド、PLR配管のひび等)	夜間以外は休祭日であっても公表
	信頼性確保の観点から公表する不具合 (例：管理区域内の放射性物質の微少漏洩等)	前日の不具合を翌平日に公表
その他	上記以外の不具合 (例：記録計の打点不良、記録紙送り不良等)	まとめて当社のホームページに掲載

公表実績 (平成15年11月17日より運用開始)

(平成16年11月16日現在)

区分	福島第一	福島第二	柏崎刈羽
	6件	2件	5件
	43件	21件	10件
	58件	34件	42件
その他	5,604件	3,120件	4,362件



4. 今後の更なる原子力発電所の安全確保の取り組み

「しない風土」と「させない仕組み」構築の継続的努力と更なる発展に取り組む

原子力発電所を運転・管理する事業者として、安全最優先の事業運営による「信頼回復」を第一に、品質管理の徹底、改善の諸活動に取り組む

原子力発電の持つメリットを生かす発電所運営を可能にするような、規制環境の整備を国、関係機関の協力を得て実現する

- ・ 国の組織が技術的な安全の面で科学的合理的な規制を実施する仕組みを構築することが重要。科学的合理的規制には、関係者の一致協力した努力が必要。
- ・ 事業者はもとより、国の組織が説明責任を果たし、地域や国民の理解を得ることが不可欠

長期にわたる安定した運転を通じ、地域と原子力発電所との共生を図ることにより、高経年化やサイクル関連事業など、今後の課題解決の基盤を強固なものとする